

今朝も皆さまと共に主を礼拝できることを感謝します。先主日は不調であった喉もだいぶ回復し、昨日の常磐宣教区での奉仕も守られました。皆さまのお祈りに心から感謝いたします。皆さまのご健康や日々の歩みも続けて守られ支えられますよう、お祈りしています。

今朝は会堂が与えられている恵みに感謝をし、献堂記念礼拝の時を共に過ごしています。私たち八千代聖書教会は昨年教会設立40周年を迎えました。そして私たちは2004年からこの会堂で礼拝をしています。教会設立から今年で41年、会堂ができて21年となりました。ちょうど21年前の今日、2004年11月23日に献堂式が行われました。これまで神さまが私たち八千代聖書教会を祝福し守り導いてくださっている恵みを今朝は共に覚えたいと思います。

かつてコンビニであったこの建物が神さまを礼拝する会堂として整えられ、今に至るまで礼拝が捧げ続けられていること。会堂が用いられて、神さまの恵みが豊かに現されていることに私たちは感謝して、今日も私たちと共にいて豊かな祝福を与えてくださる神さまを心から礼拝する者でありたいと思います。

心を一つに（礼拝と交わり）

今朝のみことばは使徒の働き2章です。ここに記されるのは聖霊が降臨し、教会が誕生した後の出来事です。最初にイエスさまを信じた人たちの集まりを、初代教会と呼びます。その初代教会がどのような歩みをしていたかが今日の箇所には記されています。今朝はこのみことばから、私たち教会に与えられ委ねられている働きが何であるか、共に教えられていきたいと思います。今日の46-47節。

そして、毎日心を一つにして宮に集まり、家々でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、神を賛美し、民全体から好意を持たれていた。主は毎日、救われる人々を加えて一つにしてくださった。

ここにはいくつかの初代教会の特徴が記されています。まず彼らは毎日心を一つにして宮に集まっていたと言われています。心を一つにして集まっていた初代のキリスト者たち。宮というのは当時の神殿のことです。神さまを礼拝するために、彼らは心を一つにして集まっていた。そのことを私たちは今朝大切なこととして覚えたいと思います。「心を一つに集まった」と訳されている言葉は心を一つに専念したとか、心を一つにひたすら集ったという意味の言葉です。ひたすらに集まって礼拝する。礼拝に専念するために心一つに宮に集まる。そんな初代教会の姿を聖書は私たちに教えるのです。私たち八千代聖書教会もまた、礼拝のため心を一つに集まる共同体です。ひたすら神さまを礼拝する、心を合わせて礼拝に専念する。そのためにこの会堂が備えられ、用いられていることを思います。会堂で、またオンラインで今朝も共に心を合わせて礼拝する幸いが与えられていることを覚えて、ますますひたすらに熱心に主を礼拝し続ける私たちでありたいと思うのです。

また家々でパンを裂きというのは、私たちが毎月行う聖餐式のことを指していると考えられます。イエスさまの十字架の恵みを覚え感謝し、共にパンを分け合う交わりを教会は続けてきました。さらに喜びと真心をもって食事をともにしたと言われます。教会はその最初から、交わること、ともに食事をすることを大切にしてきました。私たちのこの会堂も、共に食事をしたり交わったりするために用いられています。コロナ禍で一時はできなかった食事の交わりが再開して、先日は久しぶりに流しそうめんもしました。皆さんとお食事を囲み楽しい時を過ごせていること感謝をしています。今日も大掃除の後には食事がありますので、ぜひみなさん残っていただいて、共に食事の時を過ごせればと願っています。聖書は食事を共にすることをとても大事なこととして私たちに教えています。イエスさまも社会的な弱者と呼ばれるような人々や、虐げられている人たち罪人と呼ばれていた人たちと食事をされました。どんな人も受け入れ愛してくださるイエスさまを中心とした交わり、互いに愛し合い受け入れ合い喜び合う、豊かな交わりをこれからも築いてまいりたいと願います。

神さまを礼拝し交わるため集まった初代教会。ともに神さまを見上げ礼拝し、心から交わる教会の歩みを私たちはこれからも続けていきたい。そのためこの会堂を用いていただきたい。そのように願います。聖書の教える「教会」とは建物のことではありません。会堂はもちろんとても大切なものです。建物自体が教会なのではない。私たち信じる者たち、この場に集められている一人ひとり、この集まりが教会なのだということ。それを私たちは覚えたいと思います。私たちがイエスさまのゆえにこの地に集められている。会堂で、またオンラインでイエスさまを見上げ礼拝する者たちの集いがここに形成されている。それがキリストのからだである教会です。私たちが神さまをともに礼拝する者たちとして集められていること。この八千代聖書教会が主を礼拝する群れとして立てられ導かれていることに感謝し、私たちはますますこの地で心から神さまを礼拝し交わりを共にする者でありたいと思います。神さまの前に集められているお互いを心から喜び感謝し、共に愛し合い祈り合って、主のからだなる教会をともに建て上げ続けてまいりましょう。

今年私たち八千代聖書教会は教会設立40周年の記念誌を発行しました。教会の皆さまをはじめ多くの方々に原稿を寄せていただいて、編集委員の皆さまと共に主の恵みに満ちた記念誌を発行することができたこと、心から感謝しております。改めて、発行された記念誌を読み返していました。神さまの恵みがそれぞれの歩みの中で豊かに示されてきたことを知るとともに、八千代聖書教会を通して私たちが一つとされていること。それぞれに別の道を歩んできた私たちが、八千代聖書教会を通して神さまの前に集められていることを改めて感じました。

また記念誌に加えて、献堂記念誌にも改めて目を通しました。この二つを読むことで、教会の歩みがこれまでどのように守られ支えられ導かれてきたか、深く立体的に教えられる思いがしました。神さまが私たち一人ひとりを愛し、私たちを集め一つとしてくださっている。神さまを礼拝しイエスさまを信じて歩む群れとして、互いに愛し合う交わりを築くことができている。一人ひとりの尊い存在に感謝しつつ、私たちを一つとしてくださる神さまの恵みに感謝し信頼して、私たちは続けて歩む者でありたいと願うのです。

人々を加えてくださる主（宣教）

そして私たち教会は人々を主のみもとに集め加えていくためのものもあること。人々が神さまの元イエスさまの元に集められるために私たちが、そしてこの会堂が用いられていくことを心から願うものでありたいと思います。

「主も毎日、救われる人々を加えて一つにしてくださった。」と47節にはありました。

初代教会の働きを通して、毎日救われる人たちが起こされたようです。神さまを礼拝する姿、一つとなって共に交わり愛し合う教会に人々が加えられていった。聖霊を受けて歩み出した教会の働きによって、人々はイエスさまこそ救い主であることを知るようになっていったのです。そこには彼らが語った教えや福音の知らせ、みことばの力というものがもちろんあったことでしょう。そしてそれとともに、教会が神さまを礼拝する姿や、互いに愛し合い食事を共にする交わりを通して、人々がイエスさまのもとへと集められていった。そのようなことがあったのではないかと思います。

27節の前半には教会が民全体に好意を持たれたと言われています。教会が何か怪しいことをしている人たちとか、よくわからない集団としてではなく、神さまを礼拝し互いに愛し合う存在として人々に受け入れられていたこと。民全体から好意を持たれていたこと。あの人たちのようでありたい。あの人たちの仲間に自分も加わりたい。そのように思わせる豊かで麗しい交わりがそこにはあった。それが福音の宣教のため、救いの広がりのために用いられていったのだということを私たちは覚えていたいのです。私たち八千代聖書教会もまた、救われる人々を集め一つとするためにここに置かれていること。私たちの存在が人々の救いのため用いられていくことを願って、主を心から礼拝し互いに心から愛し合う豊かな交わりをともに築いていきたいと思います。

先主日はM姉妹の転入会式がありました。新たなメンバーを迎えることができたこと本当に感謝しています。転入会式での証にも多くを教えられ、神さまがM姉妹を通して豊かな祝福を与えてくださっていることを覚えることができました。M姉妹は八千代聖書教会の雰囲気、そこにいらっしゃるお一人おひとりの優しさや親切さに惹かれて、私たちの教会に通ってくださり転入会を決心してくださいました。私たちもM姉妹のお人柄を通してたくさんの恵みをこれまでもいただいてきましたし、これからまた共に神さまを見上げて歩めることに心から感謝をしています。

また先日は、T姉妹の病床洗礼もありました。T姉妹は10月末に危篤状態になられ私も前に訪問した際にはほとんどコミュニケーションが取れない状態にありました。しかし先日は看護師さんの助けもありとても意識がはっきりしておられ、私がイエス・キリストによる救いの話をし信仰の確認をした時にもしっかりと応答をしておられました。神さまがこの時しかないという時を備えてくださった。神さまご自身がT姉妹をご自分の身元へと招き救い出し、私たち信じる者たちの群れに加えてくださった。そんな恵みに感謝をした時でした。TさんもYさんご夫妻やKさん、ご家族や教会の方々を通して神さまの愛や教会の交わりの素晴らしさを伝えられていました。家庭集会にも何度かお越しくだって親しくお交わりをいたしましたことを思い出します。神さまが人を通して、教会に連なる一人ひとりを通して救われる方を起こしてくださること。神さまの愛が私たちを通して伝えられていくことに感謝をし、主の御名を心から崇める者です。

これまで多くの人たちが八千代聖書教会に招かれ導かれ、会堂に足を踏み入れてくださいました。実際にイエスさまを信じ救いに与る方々が起こされています。主ご自身が、教会の交わりを通して私たちを通して、救われる方を起こし交わりに加えてくださっている。その恵みを私たちは覚え感謝して、ますます救いに与る方々が起こされていくよう祈り励む者とされたいと思います。

そして、毎日心を一つにして宮に集まり、家々でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、

神を賛美し、民全体から好意を持たれていた。主は毎日、救われる人々を加えて一つにしてくださった。

初代教会は神さまを礼拝し交わりをし、そして福音を宣教して歩みました。これは私たち八千代聖書教会がこれまでの41年間続けてきた主の働きであり、これからも私たちがともに励んでまいりたいと願っていることです。神さまを心から褒め称え心を一つに礼拝していく。互いに支え合い愛し合い祈り合って、主にある豊かな交わりを築いていく。そして、イエス・キリストの十字架による救いをこの地に宣べ伝えていく。礼拝、交わり、そして宣教。それが私たち教会に与えられている大切な務めです。この務めを十分に果たすために、大切な会堂を、私たち自身を豊かに用いていただきたい。そのような願いをもってこれからも主の教会をともに建てあげて参りたいと思います。

お祈りをいたしましょう。

「私たち八千代聖書教会のかしらであられる、主イエス・キリストの父なる神さま。教会設立41年、献堂21年の恵みを感謝いたします。神さまが八千代聖書教会をあなたを礼拝し交わりをし、そして宣教する群れとして用いてくださっていることを感謝いたします。神さまが私たちに与えてくださっている恵みと、委ねられている務めに感謝をして、ますます精一杯あなたにお仕えする私たちとどうかならせてください。この会堂を通して、また私たちを通して、あなたの御名が崇められ、あなたの愛が満ち溢れ広がっていきますように。あなたの恵みに感謝して、主イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。アーメン。」